

第26回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

美術の研究は、作品の価値から離れては成り立たない。このシンポジウムでは、美術品の価値形成のメカニズムを考える切り口として「移動」という視点を提言した。ここでの移動は、空間的な移動のみではなく、移動しないのにモノの在りようが変わる「時間的移動」や破壊による「消滅」なども移動の一形態と考えた。この視点からは、モノは時間、空間、そしてその置かれたコンテキストを移動する生き物とのアナロジーでとらえられる。このような「移動」は、モノの価値形成と密接に関わっている。売買・寄贈・略奪など様々な移動の過程で、モノの価値は保存され、変質し、また新たな価値を上塗りされ、様々な価値の歴史が堆積していく。モノが空間軸・時間軸・コンテキスト軸からなる三次元空間を移動していく様相を歴史的に追うことによって、美術品の価値形成のダイナミズムを分析し、その結果としてある「現在」を浮彫りにすることを試み、建築や考古遺物、また固定したかたちを持たない芸能などを含めた幅広い対象について議論した。

日程：2002（平成14）年12月4～6日

会場：東京国立博物館

12月4日

	発表者	演題
1	鈴木廣之（東京文化財研究所）	〔基調講演〕 うごく モノ—時間・空間・コンテキスト— (Moving Objects: Time, Space and Context)
第1セッション：モノの年輪 (The "Annual Rings" of Objects)		
1	Terry S. Milhaupt（メトロポリタン美術館研究員）	<辻が花>裂400年の伝歴—世俗の衣裳から博物館の収藏品へ— (The Four-Hundred-Year Life of a <i>Tsujigahana</i> Textile: From Secular Garment to Museum Artifact)
2	内田好昭（京都市埋蔵文化財研究所）	神代石の収集 (Collecting <i>Jindai Seki</i>)
3	松原茂（東京国立博物館）	題跋の追加とその価値 (The Use of Colophons and their Values)
4	裴炯逸（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）	植民地朝鮮に<日本の古代>を収集する—東京人類学会と比較文化的枠組み— (Collecting Japan's Antiquity in Colonial Korea: The Tokyo Anthropological Society and the Cultural Comparative Perspective)
5	石守謙（国立故宫博物院）	皇帝コレクションから国宝へ—20世紀前半における中国美術と故宫博物院— (From Imperial Collection to National Treasure: Chinese Art and the Palace Museum in the 1st Half of the 20th Century)

12月5日

第2セッション：モノの旅行記 (The "Travel Diaries" of Objects)

	発表者	演題
--	-----	----

1	林道郎 (武蔵大学)	《ゲルニカ》のオデュッセイア—20世紀のアイコン— (The Odyssey of <i>Guernica</i> : An Icon of the Twentieth Century)
2	Gregory P. Levine (カリフォルニア大学バークレー校)	ボストンにおける羅漢—大徳寺五百羅漢図の旅— (Rakan in Boston: The Travels of the Daitokuji <i>Five Hundred Luohan</i>)
3	洪再新 (ピューージェット・サウンド大学)	ストックホルムから東京へ—20世紀初頭、中国古画の国際市場におけるE.A.スツラヘルネクのふたつのコレクション— (From Stockholm to Tokyo: E. A. Strehlneek's Two Shanghai Collections in a Global Market for Ancient Chinese Paintings in the Early 20th Century)
4	山崎剛 (文化庁)	輸出漆器における異国性の変容 (The Change of "Foreignness" as Seen in Export Lacquerware)
5	井手誠之輔 (東京文化財研究所)	作品のアイデンティティと画家の実存—西金居士筆、張思恭筆とされる仏画の場合— (Identity of a Painting and the Existence of the Painter: In the Case of Buddhist Painting Attributed to Xijin Jushi and Zhang Sigong)
6	宮田繁幸 (東京文化財研究所)	芸能における「移動」の意味—民俗芸能の場合を中心に— (The Meaning of "Movement of Transfer" in the Performing Arts: Focusing on Folk Performing Arts)
7	田中淳 (東京文化財研究所)	都鄙の振幅—青木繁の場合— (The Pendulum Swing between Town and Country: Aoki Shigeru's Case)

12月6日

第3セッション：モノと人の力学 (The Dynamics of Interaction between Objects and People)

	発表者	演題
1	寧強 (ミシガン大学)	敦煌大仏の生命—コンテキストの変化と機能の変化— (Contextual Change and Functional Change: Life of the Tallest Buddha at Dunhuang)

2	中井淳史（日本学術振興会特別研究員）	憧憬のなかの京都：うごくモノ情報と価値形成—日本中世の土師器における— (The Longed-for Kyoto: The Movement of "Object Information" and Value Formation as Seen in Japan's Chūsei Period <i>Haji Ware</i>)
3	Amanda M. Stinchecum（インディペンデント・スカラー）	沖縄県における縦緋の木綿細帯—その用途・社会階級・意味が変化してゆく八重山ミンサー帯のうつりかわり— (Yaeyama <i>Minsa</i> : A Cotton sash and its Transformation across Boundaries of Usage, Class, and Meaning in Okinawa)
4	佐々木利和（東京国立博物館）	とこしえに地上から消えた千島アイヌとその文化—日本人が自ら葬り去った異文化— (Eternally Vanished: The Chishima Ainu and their Culture-Japan's own Longburied and Forgotten Foreign Culture)
5	中谷礼仁（大阪市立大学）	セヴェラルネス（事物の多様性を可能にする転用過程のメカニズム）—歴史的住居の転用研究から— ("Several-ness" as a Mechanism which Allows the Multiplicity of Human-made Things: Implications from Research on the Conversion of Historical Dwellings)
6	富井玲子（インディペンデント・スカラー）	「日常性への下降」から「芸術性への上昇」へ—赤瀬川原平・他《模型千円札事件》における作品空間の生成と移動— (Descent to the Mundane and Ascent to Art: <i>Model 1,000-Yen Note Incident</i> by Akasegawa Genpei and Company)